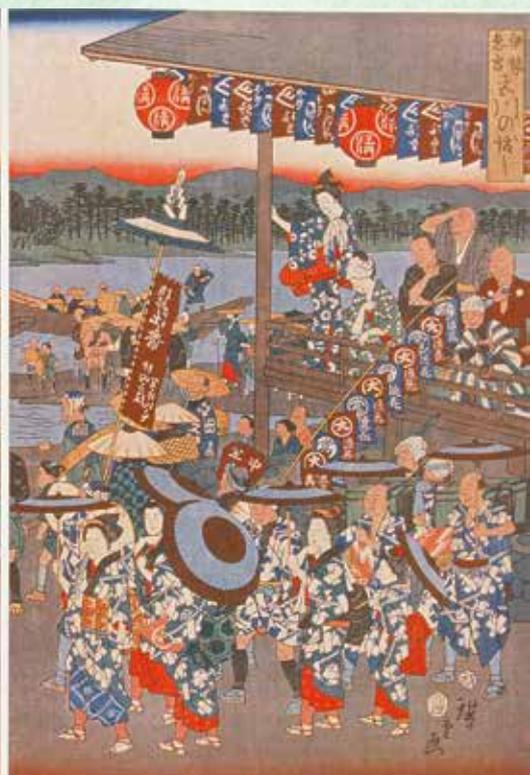
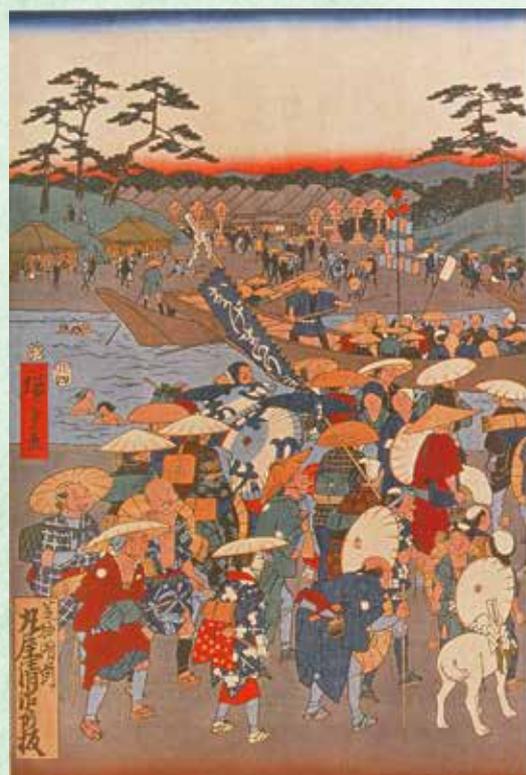


生駒市指定文化財

第4集

生駒市教育委員会



「伊勢参宮宮川の渡し」
歌川広重 安政2年(1855)
36.5cm×74.0cm(神宮徴古館農業館蔵)

文政13年おかげ参り柄杓

令和8年1月23日指定



※画像の縮尺は約2/3

柄杓外面の墨書（展開写真）



柄杓内面



柄を差し通した外面の穴



底部外面の墨書

おかげ参りとは、江戸時代に起った伊勢神宮への集団参詣のことで、全国各地から多くの人々が伊勢神宮を目指しました。おかげ参りは、およそ60年周期で発生し、慶安3年（二六五〇）、宝永2年（一七〇五）、明和8年（一七七二）、文政13年（二八三〇）などが著名です。

江戸時代には街道が整備され、往来手形の発行も容易になったため、神社仏閣等を巡る旅もさかんになりました。特におかげ参りについては、通常戸主が代表となって参詣する伊勢講とは異なり、貧富の差、大人・子供、性別に関わりなくあこがれの聖地を参詣できる千載一遇の機会となりました。

参宮道沿いの町や村では、参宮者に対して宿・食事・風呂などを提供する施行と呼ばれる接待が行われ、参宮者は柄杓を差し出すと、無償で宿や食事などを提供してもらうことができました。柄杓は安心・安全に道中を進むための重要な旅道具であったといえるでしょう。

文政13年のおかげ参りは、3月の下旬に阿波国から発生し、約半年余りにわたって続きました。その間の



竹製の柄杓か

「伊勢参宮宮川の渡し」
※部分引用(神宮徴古館農業館蔵)



施行所のような「御陰参宮文政神異記」

寛輪在六 天保3年(1832) 見開き半頁は22.8cm×15.6cm
※周囲余白を切り落とし(三重県総合博物館蔵)



曲げ物の柄杓「雙筆五十三次 袋井」

三代目歌川豊国(人物)・歌川広重(風景)
安政2年(1855) 原画は37.0cm×25.0cm
※部分引用(袋井市歴史文化館蔵)

参宮者は400万人を超えるものであったといわれています。

おかげ参りの柄杓は、「御陰参宮文政神異記」によると、一般的には参宮者が外宮にたどり着くと、持参した柄杓をその場に置いて帰るのが習わしになっていったようですので、おかげ参りの柄杓が伝承・現存すること自体が珍しいことです。

本品は、文政13年のおかげ参りの際に俵口村在住であった文七さんが携行した柄杓です。筒状の竹一節分を利用して、上下逆転させて制作したもので、茶道の点前道具に酷似した仕上がりです。柄は欠損しています。

やや胴張りの器は、上端部の直径が約6.2cm、底部の直径が約5.2cm、高さが5.5〜5.8cmです。器の外面は竹の表皮を削り磨き、口縁端部の内外面や外面底部寄りを丁寧に削り込んで丸みを持たせています。底部は内外面とも無調整で節の形状をそのまま活かし、外面は中心部寄りが突出しています。刺し通しの柄の痕跡は、外面の穴と内面の内削りが一連で残っています。器の容量は約100mlです。

現代の柄杓職人さんの見立てで



外宮北御門杓積たる図
「御陰参宮文政神異記」
※見開き左半頁及び周囲余白を切り落とし
(三重県総合博物館蔵)

は、外形がやや不整形で重量バランスも均等ではないことから、日常雑器として作られたものとみるのが妥当のようです。

外面の墨書は、縦書きの「大神宮」を中心に、向かって左側には円周に平行した縦書きで「和州俵口村文七」「文政十三年寅之□」、向かって右側には「おかげ参り」と記されています。一方、底部には3行縦書きで「うる(閏)三月二日」と記されています。この記録から文七さんもいち早く参宮したことが推測できます。

文七さんは記録によると、当時庄屋を務めていた人物の家族でしたが、跡を継ぐ立場にはなかつたようですので、この文政のおかげ参りが、自身の夢をかなえる絶好の機会となりました。



柄杓全景
柄を装着した復元長は41.0cm前後と推定

以上のように、この柄杓は、当時全国各地で大流行したおかげ参りの様子をより具体的に物語るものであり、また、日常的に使用される器や道具類が良好な状態で約200年間伝え残されている状況を踏まえ、と、市指定文化財にふさわしい貴重な歴史資料であるといえます。

種別	有形文化財（歴史資料）
名称・員数	文政13年おかげ参り柄杓・1点
所在地	生駒市東新町8番38号
所有者	生駒市
管理者	生駒ふるさとミュージアム
時代	江戸時代（後期）文政13年（1830）

旗本堀田家銀札版木

令和8年1月23日指定



銀五匁版木 (表) 同左 (裏)



銀六匁版木 (表) 同左 (裏)



銀六匁版木 (表) 同左 (裏)

※画像の縮尺は約2/5 概略寸法：縦14.3cm、横3.8cm、高5.0cm

切池に居を構えていた豪農でした。

堀田家は、慶長6年(一六〇一)に知行地(幕府から与えられる土地)として、大和国の高山村の東方と鹿畑村を所領するようになり、明治維新期まで支配しました。

本品は、禄高の高い大身たいしんの旗本であった堀田家(四二〇〇石)が慶応元年(一八六五)に発行した銀札の原版となる版木です。

お札は、和紙に墨書や押印で額面や発行元を記し、検印したものが発行されました。諸藩が発行した藩札、地域の有力商人が発行した私札などに加え、將軍直属の家臣である旗本が発行した旗本札などがあります。

銀札とは、江戸時代の通貨である金貨・銀貨・銭貨に代わるもので、幕府の許可を得て、限定された地域内で流通させることができた紙幣のことです。銀札は西国を中心に発行されました。



銀五分版木 (表) 同左 (裏)



銀三分版木 (表) 同左 (裏)



銀貳分版木 (表) 同左 (裏)

※画像の縮尺は約2/5 概略寸法：縦13.8cm、横2.7cm、高5.0cm

吉兵衛さんは、醬油醸造などを行って蓄財し、それらの資金力をもとに薩摩藩との物産交易も展開していました。

銀札版木は、銀五匁、銀壹匁（2組）、銀五分、銀三分、銀貳分の計5種類（6組）が残存し、いずれも大坂の御用銀札彫刻師であった藤樹西海堂に制作してもらったものです。銀五分版を除く版木には木箱も付属しています。

版木の材質はヒノキで、上・中・下の3部品が貫木で連結・固定されて一つの版木を構成しています。

額面を記す表の図像と文字は、匁版・分版ともに、上部は上方に大黒天、その下に焔宝珠紋を描いています。中部は中央に額面、その両側に右から「慶応元丑季」「智行所嘉限」と発行年と、この旗本札が有効な地域を記しています。上部下方の宝珠の数と中部額面の数字は一致しています。下部は上側に「堀田方」、その下には毘沙門亀甲紋地の中央に本来の通貨である銀貨を預かった際に発行する預札を意味する「預」と記



銀五匁版木 木箱蓋



銀五匁版木 木箱身裏面



銀五匁版木 (裏) 下部の篆書「義顯」



同上 押印部の拡大
※デジタル処理で押印された文字を強調



銀五匁版木 (表) 側面の丸彫り調整



銀五匁版木 (裏) 下部の宝尽くし紋



銀五匁版木 (裏) 裏面の柁目痕

しています。文字や図像の表現は大変繊細で精緻な仕上がりのです。

裏も匁版・分版ともに、上部は「和州 高山」、中部は雷紋地の中央に「此切手を以引替相渡可申候」（この銀札と引替で額面の銀貨を渡すことができます）と記しています。

下部は中央上側に「中谷吉兵衛」、その下に中国の古い書体である篆書で「義顯」と記し、その両側には宝尽くし紋を中心とした、おめでたい図柄をちりばめています。匁版と分版では多少図柄が異なります。

なお、旗本札として一枚紙に刷り上げたものには、表面の中部中央に「榮續」の朱印、裏面の上部中央に「引替所」の朱印が捺印されていたようです（『大和紙幣圖史』参照）。

次に収納箱ですが、匁版・分版ともに、箱蓋に彫刻師の屋号と押印、在中する版木の内容と数量を記し、箱裏には、制作された日付が記されています。箱蓋の押印には「大坂ごこばすじ 御銀札印判師 納屋町 西海堂」と記されています。



銀貳分版木（裏）下部の篆書「義顯」



銀貳分版木 木箱身裏面



銀貳分版木 木箱蓋



銀五分版木（裏）下部の宝尽くし紋

珊瑚と丁子と分銅

宝珠

打出の小槌

隠れ蓑

七宝と宝珠

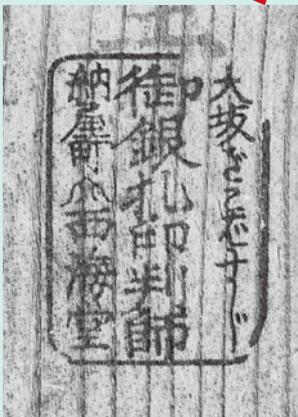
隠れ笠

宝鍵

宝袋



銀三分版木（表）版面端縁の変形



同上 押印部の拡大
※デジタル処理で押印された文字を強調

一般的に江戸時代に発行された藩札・旗本札等の紙幣は、明治新政府の通貨・銀行制度の整備の中で整理・処分されていきました。加えて、明治2年（一八六九）12月には藩札等の増製が禁止されたため、版木の現存事例も少ないものと推察できます。

そのような中、本例は多種にわたる額面の版木が残っており、現代までに及ぶ通貨制度を検討するうえで貴重な歴史資料であり、指定文化財として将来にわたり伝え残していくものとしても大変重要です。



種別	有形文化財（歴史資料）
名称・員数	旗本堀田家銀札版木・6組
所在地	生駒市東新町8番38号
所有者	生駒市
時代	江戸時代（幕末期）慶応元年（1865）

生駒市内指定文化財一覧表

令和8年1月23日現在

種類	指定・登録・選定区分	大別	種別	名称	指定年月日	員数	所有者 (管理者・管理団体)	所在地	時代		
有形文化財	国宝	建造物	建造物	長弓寺本堂	昭和28年11月14日	1棟	長弓寺	上町	弘安2年 鎌倉		
			工芸品	工芸品	金銅能作生塔	昭和30年 2月 2日	1基	長福寺	東博	鎌倉	
		重要文化財	建造物	建造物	建造物	長福寺本堂	明治32年 4月 5日	1棟	長福寺	俵口町	鎌倉後期
					建造物	宝幢寺本堂	明治37年 2月 18日	1棟	宝幢寺	小平尾町	室町前期
					建造物	円福寺本堂	大正11年 4月 13日	1棟	円福寺	有里町	応安 4年 室町
					建造物	円福寺宝篋印塔	昭和30年 2月 2日	2基	円福寺	有里町	永仁元年 鎌倉
					建造物	宝篋印塔	昭和32年 2月 19日	1基	有里外9力大字	有里町	正元元年 鎌倉
					建造物	宝山寺獅子閣	昭和36年 3月 23日	1棟	宝山寺	門前町	明治15年 鎌倉
					建造物	円証寺五輪塔	昭和36年 3月 23日	1基	円証寺	上町	天文19年 室町
					建造物	円証寺本堂	昭和46年 6月 22日	1棟	円証寺	上町	天文21年 室町
	建造物				高山八幡宮本殿	昭和53年 5月 31日	1棟	高山八幡宮	高山町	元亀 3年 室町	
	美術工芸品				絵画	絵画	絹本着色弥勒菩薩像	明治32年 8月 1日	1幅	宝山寺	東博
		絵画	絹本着色愛染明王像	明治42年 4月 5日		1幅	宝山寺	奈良博	鎌倉		
		絵画	絹本着色春日曼荼羅図	明治42年 4月 5日		1幅	宝山寺	奈良博	南北朝		
		彫刻	彫刻	木造文殊菩薩騎獅像・普賢菩薩騎象像	明治39年 9月 6日	2躯	円証寺	上町	平安		
			彫刻	厨子入木造五大明王像	大正元年 9月 3日	5躯	宝山寺	門前町	元禄14年 江戸		
			彫刻	木造十一面観音立像	昭和11年 9月 18日	1躯	長弓寺	上町	平安		
			彫刻	木造不動明王及脇侍像・銅造俱利伽羅竜剣	平成28年 8月 17日	5躯1基	宝山寺	門前町	江戸		
		書跡	書跡	能本世阿弥筆	昭和47年 5月 30日	5巻	宝山寺	門前町	室町		
			考古資料	大和竹林寺忍性墓出土品	昭和62年 6月 6日	1括	竹林寺	唐招提寺	嘉元元年 鎌倉		
工芸			黒漆厨子	昭和11年 9月 18日	1基	長弓寺	上町	鎌倉			
記念物	国指定史跡	史跡	墳墓	行基墓	大正10年 3月 3日	—	竹林寺	有里町	鎌倉		
有形文化財	国登録有形文化財	建造物	建造物	旧生駒町役場庁舎 富田家住宅主屋ほか8棟	平成22年 4月 28日 平成28年11月 29日	1棟 9棟	生駒市 富田家	山崎町 高山町	昭和 8年 明治23年		
文化財の保存技術	選定保存技術	有形	団体	屋根瓦葺 (本瓦葺)	平成19年 9月 6日	1団体	一般社団法人 日本伝統瓦技術保存会 (事務局:山本瓦工業株式会社)	谷田町			
有形文化財	県指定有形文化財	美術工芸品	絵画	絵画	絹本着色生駒曼荼羅	平成 3年 3月 8日	1幅	往馬大社	奈良博	康正 2年 室町	
				絵画	紙本墨画十卷抄	平成 6年 3月 25日	10巻	宝山寺	門前町	嘉禄 2年 鎌倉	
				絵画	絹本着色楊柳観音像	平成30年 2月 2日	1幅	長弓寺円生院	奈良博	南宋~元	
			彫刻	彫刻	木造地藏菩薩立像 康俊・康成作	昭和44年 3月 28日	1躯	長弓寺宝光院	上町	正和 4年 鎌倉	
				彫刻	木造僧形八幡神坐像・木造女神坐像	平成13年 3月 30日	2躯	法楽寺	高山町	鎌倉	
				彫刻	木造釈迦如来坐像	平成20年 3月 28日	1躯	円証寺	上町	鎌倉	
				彫刻	木造四天王立像	令和 6年 3月 22日	4躯	法楽寺	高山町	平安	
			書跡	書跡	観世世阿弥能楽伝書	昭和29年 3月 8日	8点	宝山寺	門前町	室町	
				書跡	金春禅竹能楽伝書	昭和29年 4月 8日	5点	宝山寺	門前町	室町	
				歴史資料	金春家武芸関係資料	平成18年 3月 31日	13巻	宝山寺	門前町	桃山~江戸	
工芸	工芸	木造黒漆塗彩絵厨子	昭和62年 3月 10日	1基	長福寺	奈良博	正和 2年 鎌倉				
	民俗芸能に用いられる衣服・器具	乙田浄瑠璃・芝居資料	平成19年 3月 30日	214点	萩の台文化財保存会	萩の台					
民俗文化財	県指定民俗文化財	有形民俗文化財	無形民俗文化財	生駒 (往馬坐伊古麻都比古神社) の火祭り	平成23年 3月 30日	—	往馬大社火祭り保存会	壱分町			
記念物	県指定史跡	史跡	墳墓	美努岡萬墓	昭和60年 3月 15日	—	生駒市	青山台	奈良		
			天然記念物	植物	往馬大社の杜そう	平成10年 3月 20日	—	往馬大社	壱分町		
有形文化財	市指定有形文化財	美術工芸品	古文書	古文書	傘形連判状	平成21年 1月 23日	7点	生駒市教育委員会	東新町	慶応 4年 江戸末期	
				古文書	公慶上人関係史料	平成21年 1月 23日	6点	法楽寺	高山町	貞享 2年~ 元禄16年 江戸前期	
			歴史資料	歴史資料	文政13年おかげ参り柄杓	令和 8年 1月 23日	1点	生駒市	東新町	文政13年 江戸後期	
				歴史資料	旗本堀田家銀札版木	令和 8年 1月 23日	6組	生駒市	東新町	慶応元年 江戸末期 (幕末)	
彫刻	彫刻	伊行氏関連石造遺物群	平成27年 3月 23日	1括	石仏寺 無量寺	藤尾町 壱分町	鎌倉				
	民俗文化財	市指定民俗文化財	無形民俗文化財	祭礼	高山八幡宮宮座屋行事	平成14年 9月 27日	—	高山八幡宮宮座	高山町	鎌倉	

生駒市指定文化財 (第4集)

令和8年1月23日

発行 生駒市教育委員会

奈良県生駒市東新町8番38号

写真撮影協力

独立行政法人国立文化財機構

奈良文化財研究所

印刷 株式会社 昭文社

奈良市柏木町176-1



「文政十三年庚寅春御影参道の粧」
玉柳亭重春 文政13年(1830)
37.5cm×152.8cm(豊橋市美術博物館蔵)